

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 5月 27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100591号
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	グループホーム桜並木
所在地	鹿児島市紫原4丁目30番22号 (電話) 099-802-4312
自己評価作成日	平成28年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慈愛の精神 すべての人を愛する人間愛のもとに、すべての人の意思を受容し、すべての人の人格及び尊厳をお守り致します。
自立の支援 その人の出来ない事だけを支援し、自立性を高めて頂きます。
社会的役割 私たち職員は、常に入居者と同じ目線に立ち、地域の社会資源となるよう努力します。入居者、家族、地域、ボランティアの方々が入りやすい雰囲気であり、共同生活空間が家庭的で落ち着いた物になるように配慮しています。住宅街である紫原の中央に位置しており、公園や商店などもすぐ近くにあるので、ちょっとした外出で散歩や買い物を楽しんで頂く機会を多く持てるように支援しています。同法人の協力医療機関と24時間体制で連携が取れるようになっており、緊急時の対応や、医療的な指示を仰いだりする事が迅速に行える体制が出来ている。協力医療機関の看護師長の健康チェックが週3回、主治医による往診が月2回行なわれており、定期的な健康チェックや医療行為等を行っている。また、必要に応じて訪問歯科診療や訪問マッサージ等も受けられる体制が出来ている。季節毎の行事や煙害活動、レクリエーションにも力を入れており、入居者様への楽しみの提供と共に脳活性化による認知症悪化予防を目標にしている。また、ご家族にも行事への参加を呼び掛け、職員共々行事やレクリエーションを楽しめるよう努めている。事故報告書にやヒヤリハットの提出も徹底しており、統計を取り事故の内容や時間帯等を分析して再発予防、事故防止やリスクマネジメントにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○施設は鹿児島市の高台の住宅街にあり、近隣には公園やスーパー、地元の放送局、学校があり、交通や買い物に利便性の高い地域で、家族や知人の訪問も多い。季節に応じた行事や月1回以上の外出支援、日常の散歩等で地域との関わりを継続しながら、日々の施設生活が充実出来るよう取り組んでいる。運営理念に基づいて、プライバシー保護や接遇、コミュニケーションスキルや身体拘束排除について正しく理解するよう努め、利用者の誇りや尊厳を保ちながら、その人らしい生活が安心・安全に送れるよう支援している。
○ケアプランについては、利用者・家族の意向を踏まえた上で担当職員や主治医をはじめとする各関係者がケアカンファレンスやサービス担当者会議、モニタリングを繰り返しながら常に現状に即した支援が出来るようアセスメント力のレベルアップに努めながら詳細に分かりやすく作成している。
○協力医療機関との連携が密で、月2回の往診と週3回の看護フォローを行い利用者・家族に安心感を与えている。看取りの実績はないが、研修や勉強会を通じて職員個々のスキルアップに努め、利用者・家族の思いに対応できるよう取り組んでいる。
○管理者は現場職員との距離感を大切にしながら、個別相談や運営・サービスに関する意見を聞き取り、誠心誠意対応することで働きやすい職場環境作りに努めている。個々の職員のレベルアップが施設全体の質の向上につながると、資格取得や外部研修等についても積極的に参加を促している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各職員が見やすい位置に掲示しており、事業所の理念に基づいたケアが出来るように努めている。	運営理念と基本方針のもと、人間愛と尊厳を遵守し真の生活の場となるよう地域社会つながりを保ちながら実践に努めている。認知症の進行を緩和し、心身の状況を常に把握しながら利用者自身が希望する毎日が実現出来るよう、理念と基本方針の掲示と唱和や職員会議での意義の振り返りで日々のサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、回覧板の閲覧なども行なっている。紫原中央保育園と交流があり、運動会に来賓として参加したり敬老の日に慰問に来てもらったりしている。	町内会に加入し、回覧板等の受け渡しや地域の夏祭りや保育園の運動会へ参加協力している。また、事業所の敬老会への保育園児の慰問やボランティアの来訪のほか、なじみのスーパーやデパートへの買い物による地域住民とのふれあい等、地域社会の一員として日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	行事や防災訓練への参加、協力を呼び掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族や入居者様にも参加を依頼し、意見を出してもらっている。その結果や進行状況などを次回の運営推進会議で参加者に報告している。</p>	<p>会議は社協会長や民生委員、地域包括支援センター、家族代表や利用者代表等の参加を得て定期的に開催している。ご家族からの意見や要望を把握する機会を多く作り、サービスの現状報告や支援内容の意見交換、外部評価や勉強会の報告等が行われ、課題や問題点については、職員会議やケアカンファレンスで業務改善を図り改善に努めている。今後、警察・消防関係者にも参加を呼びかけリスク対応も検討予定である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議へ参加して頂き、事業所の現状報告を行い、アドバイスをもらったり意見を交換する機会を設けている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会への参加や介護相談員の受入れ、運営推進会議への協力要請などをはじめとし、介護保険申請やサービス内容についての相談にも丁寧に対応して頂く等、日頃から市町村との意見交換や連携を密にとり、協力体制を構築・強化している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束ゼロに向けてのマニュアルを作成している。勉強会も行ない、身体拘束をしないケアを理解し、実践に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束排除マニュアルは整備され、毎月身体拘束委員会を開催し、身体拘束ゼロに向けて研修会や勉強会、ケアカンファレンスを行いながら、玄関の施錠・言葉かけや車椅子抑制、4点柵等を含めた身体拘束をしないケアについて理解を深めながら、サービス提供に努めている。玄関のセンサーや1時間毎の巡視による見守り強化にも取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を実施し、正しい知識の習得、実践を行っている。職員会議などの場でも、言葉使いや接し方についての指導を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者様がいらっしゃるため、職員に認識を高めるために勉強会等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に契約書、重要事項の説明を行っている。入居後も質問等には随時対応しており、無いように変更があった場合などはその都度説明、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月各担当毎にご家族宛への手紙を書いており、入居者様の様子や連絡事項をお知らせしている。また、定期的に家族会も行なっており、意見や要望などを伺っている。	日常生活支援の会話の中から利用者の意見や要望を把握し、家族からは面会や花見・敬老会時の家族会、電話連絡、満足度調査等を通じて意向を聴取している。遠方の家族には、毎月写真付きの手紙で健康状態をお知らせするなど運営に関する意見を伺う機会を多く設けている。申し送りノートの活用や職員会議やケアカンファレンスにて業務改善を図りながら、サービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に職員会議、勉強会、ケアカンファレンスを行っており、各職員の意見を聞く機会を設けている。また、必要に応じて個別面談を行っている。	申し送りや職員会議、ケアカンファレンス等にて運営に関する現場職員の意見や提案を聞く機会を設け、必要に応じて、物品購入や業務改善を図る等の対応を図っている。また、勤務変更や個別相談にも応じる事で、働きやすい職場環境作りにも取り組んでいる。スキルアップの為の研修会や勉強会、資格取得等によって個々の職員のレベルアップに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員に対して、資格の取得に向けた支援を行っている。取得後は給与面もアップする。全職員に賞与があり、残業手当もあり、職員の意欲向上につながっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、勉強会、職員会議、ケアカンファレンスを行っており、知識、技術の向上を目指した取り組みを行っている。また、機会があれば外部の研修にも参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人の他事業所との勉強会や行事等への参加により、交流の機会を持っている。意見交換や情報提供を行い、サービスの質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、本人と面談を行い、生活歴や現在の状況を把握する。また、必要に応じて担当ケアマネやかかりつけ病院用からも情報収集をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に十分な説明を行い、家族からの意向や要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含めた支援の方法を家族と一緒に話し合いながらケアの方針を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを理解し、今までの生活歴を考慮しながら、その人が個性を発揮し楽しく生活出来るよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への手紙を毎月作成し、近況報告を行っている。また、行事等への案内も行なっており、家族が気軽に立ち寄って職員と話が出来るように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事等で外出し、山形屋へいたり、近隣の買い物やドライブ等で馴染みの場所へ行く機会を設けている。	知人・友人の面会や手紙・電話のやり取りなどを適切に支援している。日常的には近所のスーパーや山形屋への買い物、公園への散歩や散策に同行し、美容院や墓参りへの外出、一時帰宅等も家族と協力しながら、馴染みの人物や場所との関係性が継続出来るよう可能な支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時やお茶の時間、レリェーション時等、入居者様同士が楽しく交流でき円滑な人間関係が築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族の相談等は受け付けている。また、機会があれば面会にも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中で入居者の意向を確認するようにしている。意思疎通の難しい方にも、表情等から思いをくみ取るように努めている。	日常生活支援の中から利用者個々の意向や希望の把握に努めるとともに、意思疎通が困難な方は家族の協力を得ながら、担当職員や現場職員のアセスメントやケアカンファレンスを通じて把握に努めている。常に慈愛の精神と自立支援・社会的役割を尊重した本人本位のサービスが実践出来るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネやかかりつけ病院、家族等から情報収集を行っており、必要に応じて問い合わせを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の残存能力を生かしながら無理のない範囲で自立支援を行っていく。また、体調の変化等の把握するよう努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や朝礼、カンファレンス等で職員同士の話し合いの機会を設けている。入居者様やご家族からも意見を頂き、介護計画に反映させている。	利用者・家族の意向や希望を踏まえた上で、担当者はもとより主治医・看護婦等、各関係者が総合的なサービス提供に向けて、アセスメントやモニタリング、職員会議やケアカンファレンスを経て常に現状に即したケアプランを作成している。詳細な支援計画に基づき、サービス内容が分かり易く説明されており、サービスの質の高さが感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様毎にファイルを作成し、日々の生活の様子等を記録している。すべての職員がいつでも閲覧できるようにしてある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望や本人の状態をよく把握し、時と場合に応じた柔軟なサービスが提供できるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の希望により、訪問カットや訪問歯科診療、訪問マッサージ等が受けられるようにしている。また、町内会に参加し、民生委員と話をする機会も設けてある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の大半は協力医療機関の往診、受診を受けているが、家族や本人の希望により、かかりつけの病院を受診して頂いている。	家族と協力しながら、利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診支援に努めている。協力医療機関からの月2回の主治医の往診と週3回の看護師長による看護フォローがあり、皮膚科や歯科受診等の他科受診も診療情報のやりとりや受診後の家族への報告等、業務日誌や申し送りノートを活用して適切に行っている。訪問マッサージについては、利用者の満足度も高かった為、再検討予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行っており、状態に変化が見られた時には協力医療機関に指示を貰っている。また、週3回、協力医療機関から看護師長が来訪し健康チェックや相談などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に家族や病院と連絡を取りながら、状態の把握に努めている。出来るだけ面会にも行くようにしており、退院後も安心して帰ってこられるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の状況を予想し、早目に家族や協力医療機関と相談しながら、事業所で出来ることを検討しながら支援している。	重度化や終末期については、利用者・家族の意向や希望を踏まえ、契約時や身体状況の重度化の際に「看取りに関する指針」により施設で支援出来るサービス内容について十分説明し同意を得ている。主治医及び各関係者で医療・看護・介護の共有・連携を密に図りながら支援に努めている。看取りの実績はないが、関連の勉強会や研修会を実施し、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応や救急救命についての勉強会を実施している。また、必要に応じて看護師や他職員が応援に駆け付ける体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施。消防署員や消火設備業者にも立ち会いを依頼し、評価を頂いている。	年2回、夜間想定を含む火災訓練を消防署立会で開催している。全職員が避難経路への誘導や自動通報装置等の使用方法、緊急連絡の対応や初期消火等の知識習得に努めている。消防設備の完備や点検、懐中電灯やラジオ等の備品の整備、緊急時の対応を含めたAEDの講習等、総合的な防災に対する取り組みが行われている。避難訓練への地域住民の参加お願いや備蓄の強化のほか、自衛消防隊による行方不明者や非常事態時の取り組みも今後再開の検討予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ本人の希望に沿うように生活出来るよう配慮しており、プライバシーも尊重するように声かけや対応にも注意している。また、定期的に勉強会も行なっている。	理念に沿い全ての人を愛し敬い、意志を受容し、人格及び尊厳を遵守する事で誇りやプライバシーを侵害しない声かけや支援に努めている。接遇研修やコミュニケーション技術の勉強会等で職員のスキルアップに努め、必要に応じて職員会議やケアカンファレンス等でサービスの質の向上に努めている。特に排泄や入浴時の身体介護は、利用者個々に合わせた対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様に合った声かけや意思確認を行い、可能な限り本人の意思を尊重した支援が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう気を付けながら、入居者様の時間や行動を制限しないように配慮し、本人が好きなように出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	月一回訪問理容にきてもらっている。他に買い物外出などを企画し、好きな衣類等を購入してもらう機会も設けてある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誤嚥予防、スムーズな食事摂取が出来るよう、食前に口腔体操を行っている。職員も同じテーブルにつき、会話をしながら楽しく食事出来る雰囲気作りをしている。	食事の準備や後片付けなど職員と共に行い、一緒に団欒しながら食事して楽しい時間を過ごしている。食前の口腔体操、アレルギーや食べ合わせ・食事形態にも配慮し、食の安全に努めている。メニューは法人の管理栄養士によるバランスの良い献立で料理を提供している。花見や敬老の日のお弁当、家族との外食、ソーメン流しや地元和食店でのお造り、誕生日のケーキ作り、たこ焼き、鍋パーティー等、多くの工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士がメニュー作成を行っており、バランスの良い食事が取れるようになっている。食事や水分摂取量は日誌に記録している。また、その人の状態に併せて刻み食やトロミ剤等を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科診療にも来てもらっており、治療や口腔ケアについての指導をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入居者様毎の排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄できるように支援している。オムツ使用者に対しても、カンファレンス等で話し合い極力オムツに頼らないケアを目指している。	排泄パターンや生活リズムを把握し、日中トイレ誘導を促す事で自立支援を図り、オムツ使用の軽減につなげている。プライバシーに配慮して排泄前後の身体介護については、声かけや支援方法について配慮と工夫に努めながら、利用者のペースや状況に合わせた支援に努めている。記録簿やポータブルトイレの管理も、利用者・家族に不快感を与えないよう配置されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入、確認を行い、食事量や水分摂取量の把握も行なう。日中の活動量等も考慮して、極力下剤に頼らない方法を検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	出来るだけ入居者様の希望に沿うように入浴時間を調整している。更衣や洗体等は自力で出来る所は行なってもらい、出来ない部分の支援を行っている。	週に2回、利用者個々の希望時間に添った入浴支援に努めている、入浴拒否の利用者にはタイミングや声かけの工夫で対応している。希望で家族と温泉に行かれる利用者もあり、体調不良時は清拭や部分浴で身体清潔に努めている。利用者によっては2人体制で安心・安全な入浴を図り、出来る限り自立を促す対応に努め、時には、入浴剤等の活用でより楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで自由に過ごして頂いている。意思表示の難しい方には様子を見ながら休息の時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	準備時に服薬チェック表を記入し、服薬後も日誌に記入するようにはしており、服薬忘れや間違いのないように気を付けている。服薬後の変化等見られたら主治医に報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを毎日行っており、行事も月一回行ない、楽しんでもらっている。また、簡単な家事の手伝い等して頂き、自分の役割も持ってもらっているようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コスモス見学や食事外出、買い物外出などの行事を企画し、外出の機会を設けている。天気の良い日は公園や近くの商店へ出掛けている。	体調や天候を考慮しながら日常的に近くの公園やスーパーに散歩・買い物に出かけている。コスモス見学や花見、動物園や水族館の見学、なじみのスーパーやデパートへの買い物、ソーメン流しや家族との夕食、ドライブや一時帰宅等、利用者個々の希望に添って出来る限り様々な地域へ家族と協力しながら月1回以上外出出来るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は、家族の了承のもと、自己管理を行ってもらっている。その他の人は、事業所がお預かりし、行事や買い物の際に自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙等は本人にお渡しして呼んで頂いている。家族等から電話があった場合の取り次ぎも行っている。また、本人の希望があれば事業所の電話を使いかけてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はカーテンを開け、日光を取り入れて開放的な雰囲気作りをしている。また、レクリエーション等で季節に応じたカレンダーや飾り物を作り、季節感を感じられるようにしている。	窓が広く自然採光に恵まれ、施設内は明るく日当たりも良好で、内装は木目調でぬくもりを感じられる。全体に十分なスペースが確保され、手すりや福祉用具による安全確保と利用者・職員の負担軽減に努めている。リビングの畳のスペースは洗濯物たみやくつろぎの場となり、魚の泳ぐ水槽は癒しの空間となっている。創作活動の作品や季節を感じる飾りつけで生活感があり、オープンキッチンのカウンターからは利用者の様子が確認でき安心感を与えている。加湿器の設置や清掃等により環境整備され、玄関のセンサーや非常用通路で安全を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士で話をしたり、自分の部屋で過ごされたり、リビングでテレビや新聞を見たり等、それぞれ自由に自分の居心地の良い場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれている家具、電気製品、飾り物等を持って来て頂き、出来るだけ自宅に近い雰囲気生活出来るよう配慮している。	居室は、2モーター式のベットや洗面台、エアコンが完備され、なじみの私物であるテレビや仏壇・位牌・写真等、家族と一緒にレイアウトする事で、自宅にいるように居心地よく過ごせるような工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの残存能力を生かしながら、自分で出来ることは出来るだけ自力で行なって頂き、出来ない部分の支援を行うように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ユニットの見やすい場所に掲示しており、法人の理念に沿ったケアが実施出来るように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、近隣の保育園と敬老会や運動会などの行事を通して交流する機会を持っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	花見会や敬老会、勉強会などに地域の人達にも参加を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施している。アドバイスを貰ったり意見交換などをしながら、業務を見直す際の参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に入居居状況をメールで報告している。連絡事項等あった場合は添付して送信している。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に勉強会を行っている。各職員に身体拘束廃止の意識を持ってもらうよう指導している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について正しい知識を学ぶために定期的に勉強会を行っている。また、職員会議等でも話し合う機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について、他事業所との情報交換をしている。勉強会の開催や研修等があれば参加し各職員が理解できるように努めたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学や問い合わせ、入居申し込み時等にパンフレットや重要事項説明書を用いて説明し、内容を理解して頂いている。また、入居決定時に再度契約内容の説明、確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様やご家族にも運営推進会議に参加してもらい、意見を頂く機会を設けている。頂いた意見は職員会議等で報告し、職員間で共有するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職員が職員会議やユニット会議等で意見を述べられる機会を作っている。必用に応じて個別面談も行い、話を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来るだけ残業せず定時に帰れるように業務内容を考えているが、行事等で残業になる場合は時間外手当を出しているため、職員からの不満はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人には入社時に研修を行い、その他の職員も定期的な勉強会に参加してもらい、サービスの質の向上を目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加している。また、他の事業所との情報交換も行ない、サービスの質を高めるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、本人と面会し、情報収集を行い要望や不安に思っている事などを聞きだすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話し合いを行い、家族からの要望を聞き、可能な限り要望にこたえられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から話を良く聞き、どのような支援を必要としているか全職員で話し合い、情報を共有できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去の生活歴を尊重し、その人らしい生活が続けられるような支援が出来るように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族への手紙を発送しており、連絡や行事への参加を呼び掛けている。家族が気軽に面会に来て職員と話が出来るような雰囲気作りを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	車での外出、ドライブ等で馴染みのある場所へ行ったりしている。また、近所の公園や店等にも出かけたりする機会を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やレクリエーション等で円滑なコミュニケーションを取れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方へも、機会があれば面会を行っている。また、家族からの相談等も受け付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族から聞き取りを行い、希望や意向等を把握できるように努めており、入居者様本位の支援が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報収集を行っている。また、利用のあった病院や施設からも情報を貰うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を行い、状態に変化がないか把握できるよう努めている。記録も付け、他職員にもしっかり引き継ぐようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングを行い、職員同士で斑試合意見交換をする機会を設けている。本人や家族の意見も聞きだし、介護計画に反映するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様毎にケース記録や日誌に毎日の様子を記録し、朝礼や引き継ぎ時に報告し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望や意向を聞きだし、臨機応変に対応出来るよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店や公園などに行く機会を持ち、少しでも地域との交流が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関での受診、往診を受けているが、家族や本人の希望があればかかりつけ病院での受診も出来るよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師長が週3回健康チェックに来訪しており、入居者様の状態の報告を行い、適切な指示を貰っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や病院の担当者からこまめに情報収集を行うようにしている。面会にも行き、看護師等からの話も聞くようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階で医師を交えて家族と話し合いを行い、今後どうするのか、何が出来るのかを話し合うようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応についての知識や判断が出来るよう、定期的に勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年ごとに消防訓練を実施している。消防署員や消防設備の業者にも参加してもらい、指導やアドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや接し方に気を付け、入居者様の自尊心や羞恥心を傷つけないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が活動や日中の生活を選択、決定出来るよう配慮し、出来るだけそれに沿った支援が出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ時間や行動に制限を設けず、自由に行動して頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	月一回訪問カットに来てもらい、整髪してもらっている。行きつけの美容室がある人は家族の協力の元、通ってもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に職員も食事を摂り、楽しい雰囲気が出来るように配慮している。また、配膳や下全の手伝いもしてもらうよう声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた食事形態で調理しており、日誌に摂取量も記録しており、水分量が少ない人などには適宜声かけ等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科診療に来てもらっており、診察や治療を受けている。口腔ケアも毎食後と就寝前に行なっており、異変が見られたら歯科医に報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一日の排泄状況を把握し、各職員で情報を共有し出来るだけトイレ誘導を行い、オムツに頼らない支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量を日誌に記録し、日常の活動量も把握して、出来るだけ下剤に頼らない排泄の支援を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回以上入浴出来るように予定を組んでいるが、本人の希望により時間を調整したり回数を増やしたりして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて、好きな時間に休んだり、ゆっくり過ごせるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬予防のため、準備、服薬、片付け時の3回節句を行い、チェック表に記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや余暇活動に各入居者様の趣味や好みを取り入れ、皆で楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所の公園に散歩に行ったり、商店で買い物に行ったりする機会を作っている。また、行事等で月一回程度外出を楽しむ機会を設けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金は基本的に職員で管理しており、外出時等、必用に応じて本人に渡すようにしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	家族より電話があった場合は取り次ぎを行っている。また、本人より申し出があったらこちらから家族へ電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	快適で衛生的な環境作りを目指している。また、創作活動により季節に応じた飾り物等を作成し、季節感を感じられるように配慮している。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	それぞれ自分の居心地の良い場所で過ごして頂けるよう配慮している。リビングで過ごされる人には出来るだけ職員も話しかけ、楽しく過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や電気製品を持って来て頂き、少しでも自分が生活していた環境に近い状態で過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を前提として、出来るだけ残存能力を活用し、今の状態を維持出来るように支援していく。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない